

ゴミを減らす3つのキーワード

①Reduce リデュース

買ったものを長く使う。ごみを出さないようにする。



②Reuse リユース

ごみとして捨てる前に再利用。



③Recycle リサイクル

資源に戻してもう一度新しいものを作る。



*可燃ごみの焼却灰は、埼玉県が運営している環境整備センターで埋め立て処理されていますが、金属類の混ざった灰は受け入れてもらえません。

金属が少しでもついていたら不燃ごみになります。金属がついているものを可燃ごみに出してしまうと故障の原因にもなります。

金属が、ついているものは不燃ごみ

可燃ごみ

気になっていることを聞いてみました



圧縮された資源プラスチック

*富士見環境センターでは、資源プラスチックを人の手によって選別してから圧縮して、輸送しやすくしています。

軽くすすいで汚れを落とす



資源プラスチック

取材協力
*志木地区衛生組合
富士見環境センター

*スプレー缶内部のガスを完全に使い切らず捨てたことによるごみ処理場内での爆発事故や、不燃ごみの中にスプレー缶が混入していたことで、ごみ収集車の破損事故が発生しています。

ビン類の回収かごへ

使い切ってから



スプレー缶

取材を終えて
今回取材をして感じたのは、ゴミを出したから終わりではないという事です。環境センターでは、収集されたゴミを更に細かく分類してそれぞれの再生工場や製品としてリサイクルされています。大量のゴミを目の当たりにして、その途方もない量を日々24時間体制で処理してくださっている職員さんに頭が下がりました。困っていることを伺うと資源プラスチックに注射針が混入していることがあり、危険なのでやめてほしいとのことでした。また、スプレー缶は、他の缶類と区別できるようにビンの用紙にごいれて出してほしいとのことでした。少しでもゴミを減らし、ゴミを出す時にはルールを守って分別しようと思えました。

志木地区衛生組合 富士見環境センター



知ってる？
志木地区衛生組合

志木地区衛生組合は志木・新座・富士見でごみ等に関する事業を行っています。昭和39年に組合が設立され、昭和41年に志木環境センターが完成し、1日40t焼却できる施設がありました。現在、志木環境センターは廃止されていてありません。今は、新座環境センター(焼却施設)と富士見環境センターがあります。

どんなごみを受け入れているの？
新座環境センター

新座環境センターは二つの焼却施設があり、可燃ごみを受け入れています。富士見環境センターでは可燃ごみの他に3市が統一して分別している7つのごみを受け入れています。
①可燃ごみ
②不燃ごみ
③粗大ごみ
④カン
⑤ビン
⑥プラスチック
⑦ペットボトル



富士見環境センター

富士見環境センターは昭和61年に完成しました。機能を維持・回復し、省エネルギー化を推進していくために令和2年5月から令和5年3月にかけて「富士見環境センター焼却施設基幹的設備改良(長寿命化)工事」を実施しました。省エネルギー機器を積極的に導入し、工事前と比較すると二酸化炭素排出量を3パーセント以上削減しています。



中央制御室

富士見環境センターでは90t焼却できる2基の炉があり、交替で使用しています。一般的に300〜500℃で焼却するとダイオキシンが発生しやすく、また高温になりすぎても窒素酸化物が出るといわれています。中央制御室では850〜950℃の間で燃えるように24時間体制で制御しています。

今回は、約三年間かけて大規模改修工事を実施した富士見環境センターに行って来ました。新しくなった施設を見学し、可燃ごみや資源ごみの処理について分かりやすく説明していただきました。
(担当/新井紀子、渋谷真実、小山由佳)